

～「婚活」も見据える「混活」まちづくりの実践～

令和4年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：「婚活」から拓く「混活」まちづくりの実践調査と分析

ー多様性を触発する中で山田町から仕事・移住・結婚施策の事業創出に向かうー

研究代表者：総合政策学部 教授 倉原宗孝

課題提案者：山田町若手職員施策等研究会

研究メンバー：大川修一（山田町政策企画課）花崎和博（同）芳賀大輔（同）他11名

技術キーワード：婚活と混活、仕事創出、移住促進、結婚率増加

▼研究の概要（背景・目標）

山田町では新たな総合計画策定に向けて役場若手有志が中心になり学習・議論してきた結果、「仕事づくり」「移住促進」「婚姻率の向上」の3テーマが抽出され、その具体的方法の一つに「婚活」があげられた。しかし単なる婚活ではなく、真の山田町まちづくりの今後の持続展開に向けては、様々な交流を活かし育てることが大事だとの認識のもと、本研究においては「混活」（地域内外の多様な人々が混じり合う仕組みとその効果促進）の概念提起のもと幾つかの視点から活動を行った。今年度研究においては高校生に焦点を当てた自主的な地域・政策活動、また町を舞台とテーマにした大学生と行政職員による交流・触発の場を試みた。今後、地域内外・男女・各世代の交流実践のもとその効果・検証とともに持続展開する活動のもと新たなまちづくりに向かう。

▼研究の内容（方法・経過）

庁内若手有志により整理・分析した仕事、移住、婚姻率の3柱を活動指標とした（下図）。今回その中から「高校生・大学生の就業・進学」（仕事創出）「町の魅力確認」「みんなの生活ケース」（移住の促進）「出会いの場の調査」（婚姻率の増加）（図中赤枠）に関する情報収集・分析を目的に、山田高校生の思いや考え、大学生による地域体験、大学生と庁内職員のワークショップ等を行った。

番号	仕事創出		移住の促進		婚姻率の増加	
	調査項目	実施方法	調査項目	実施方法	調査項目	実施方法
1	若者が就きたい職業について（アンケート）	アンケート	町出身者の都市部への進学率調査	インタビュー	既婚者への調査	アンケート
2	平均収入額調べ（アンケート）	アンケート	就きたい職種希望 ・都市部大学出身者の就職先データ 町出身者の就職状況調査 ・希望する職種、給料、勤務地の把握	アンケート	未婚者への結婚願望を含めた調査	アンケート
3	高校生、大学生の就業・進学調べ（アンケート）	アンケート	地域別の給料比較	既存資料活用	出会いの場の調査	既存資料活用
4	町の事業者・専業主婦へ（アンケート）	アンケート	みんなの生活ケース調査 移住したいの理由調査	アンケート	婚活イベントの成功の可否調査	既存資料活用 インタビュー
5	求人数調べ（既存資料活用）	既存資料活用	町の魅力確認	既存資料活用	既婚者の不安調査	アンケート
6	山田町の知名度調査（町内インタビュー）	インタビュー	町事業者の確認（他市町村との比較）	既存資料活用	新しい結婚後の（効果的な）生活支援制度の先進地事例調査	既存資料活用
7	他市町村との産業調査（既存資料活用）	アンケート	通勤、通学時間、距離調査	既存資料活用	子育て世帯への調査	アンケート
8	貸店舗調べ	アンケート インタビュー	町内事業所に勤務する町外の人調査	アンケート	先進地の取り組みデータ調査	既存資料活用 インタビュー
9	3大キャリアの適性エリアマップ、Wi-Fiの場所調査	既存資料活用	他地域との家賃比較 物件数の比較、土地相場比較 他とのイベント数の比較（民間企業イベント）	アンケート インタビュー	事業実施後の成果調査	既存資料活用 インタビュー
10	住みたい魅力調査	アンケート	町内居住者の雇労状況	既存資料活用		
11	事業者の補助金利用状況調査	インタビュー	町内事業者、企業へのアンケート	アンケート		
12			企業側のニーズ調査			
13			テレワーク可の企業調査	ネット取りまとめ		
14			場所を選ばない職種の把握	ネット取りまとめ		
15			商業施設の把握	ネット取りまとめ		

▼山田高校生の思い・アイディア

創立100周年が近い伝統ある山田高校だが、高校生も様々な思いがあることが分かった。

＜入学理由＞単純に「家が近いから」もあるが、通学交通費など経済性、自身の自由な時間を確保など冷静な面もある。山田高校「ボート部」の存在は大きい。＜山田高校の魅力＞「海の運動会」など海岸を持つ本町の魅力、内陸高校との交流も評価、期待される。

・＜課題＞高校の魅力不足、情報不足などの指摘も。洋式トイレの要望など、施設整備や情報発信は課題。

・山田高校への愛着は強い。伝統のもと地元を離れる人にも応援してもらえる親しみやすい高校の期待。町教育委員会の協働で津波碑説明パネルも設置された。町の魅力や災害含めて様々な歴史を高校生が活動しながら現代・未来に成果を残していく活動も重要である。



▼大学生による町の魅力体験・評価

町外若者（大学生）からの資源評価、同時に混活の一コマとして町役場職員と大学生との交流を行った。まず大学を会場にして役場職員と大学生との交流のもと町に対する印象、体験してみたい事、知りたいことを出し合った。そのもと山田町を大学生が訪問し各種体験を行った。マリンスポーツをはじめ各観光スポット、神社等歴史的要素、料理等と共に、大学生にとっては東日本大震災後の復興整備の様子も印象に残ったようだ。



▼学生・町職員とのWS、政策創造

各交流・体験のもと学生と役場職員による町政策・事業提案と共にその優先順位等が検討された。短期間だったが有効提案が生まれ、その具現化活動が期待される。



若者（大学生）と町職員が思考を触発し合い相互が多面的に学び合うよい関係だった。

▼おわりに

多くの方に大変お世話になり感謝したい。同時にこの経験を町のこれからの活かしたい。今回始まったばかりの混活まちづくりの今後の持続展開へさらに向かう。